

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念として個人の尊厳を唱え、社会の一員として町内の行事になるべく参加したり外出を心がけ、地域の住民の皆様とは日常的な交流を深めていることに取り組んでいる。		地域介護予防活動の一貫として行なわれた転倒予防教室や介護予防レクリエーションに入居者とスタッフが出かけて参加をしたり、カラオケ交流会に行ったりなど地域の方々との交流を楽しんで頂けたので、これからも取り組んでいく。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を理解するためにも毎朝申し送りの前に声を出して読み上げ、利用者が安心して過ごせるように一緒に行ったり見守りをしながら理念を意識して業務に取り組めるよう心がけている。		入居者一人ひとりを尊重する支援の在り方や、日常生活の安全確保、健康管理を行うためにはどうすべきかを考え安心して暮らして頂けるための支援に取り組んでいる。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議が発足したことで、ご家族や地域の皆様に入居者の日々の活動や今後の取り組みについて説明する場ができ、地域の皆様に私達がどのような活動をしているか理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	暖かい日は洗濯物干しや玄関前の花壇作り、草取りなどを行っている。また、近くの公園へ散歩に出かけ、隣近所の皆様と気軽に挨拶したり、隣接する喫茶店へ行き日常的に隣近所との付き合いができるよう努めている。		ホーム周囲の草むしり、少しずつ周辺の道路の草むしりやゴミ拾いなど、また、散歩の時、近所の方々に「おばあちゃん達、ちゃんと挨拶してくれませよ」とのお言葉を頂きました。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議の時は自治会、老人会、町内会の方々が参加して頂き回を重ねるごとに地域の方々に理解して頂いて、これからも行事にできるだけ参加することに努めるようにしている。推進会議以外にも回覧板で地域の行事情報を得て参加できるものは参加するよう努めている。		1・2回目とホームだけで行った夏祭りを、今年は初めて町内会と合同で行うことができた。近所のお子さんや地域の方々と一緒に焼き鳥やおでん、焼きそばのほか、ピンゴゲームなどを行い、最後は楽しく大賑わいでした。地元の人々と交流できたので、今後も続けていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員や入居者が少しでも地域に役立つのであれば、いつでも参加して協力することができる。		今後スタッフや入居者が地域にできることはないか、会議で話し合い取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフ一人ひとりが自己評価を行い、その結果を再度話し合い(個人の評価結果は社長に提出)年1回外部評価を実施して改善すべき所については、スタッフ全員がカンファレンスの時に話し合い具体的な改善策を決めて取り組んでいる。		評価結果をもとにスタッフ全員で話し合い、指導を受けたことは改善するよう努力している。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の方々の活動や避難訓練・消火訓練を実施した内容を報告して、入居者や家族から安心と信頼が得ることが出来るよう努めていることを伝えている。会議に参加して頂いた方々にも、感想や意見を頂きサービスの向上に努めている。		運営推進会議の時に、町内会の方が「消火訓練と避難訓練を合同でやりましょう」という誘いがあり、消防車1台、消防士4名が消火器の実施指導、消火訓練のバケツリレーを行った。入居者も町内の方も参加されて、とても良い機会だったので今後も取り組んでいきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所や区役所の窓口へ行くことはないが、市や区のグループホーム管理者会議に参加したり、他のグループホームの管理者と意見交換をしたり、サービスの質の向上につながる部分を参考にして取り組んでいる。		さらに積極的に市役所や区役所へ伺い相談していききたいと考えている。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての研修や、実務者研修を受講し勉強する機会を作っている。		これからも研修等で学ぶ機会を持つよう取り組んでいく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	個人の尊厳や虐待防止について学び、日々意識をしながら業務についている。親しみをこめた言葉や自立を促す言葉が、虐待にとらわれてしまわないよう注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結んだ段階で十分な説明を行い、不安のないよう納得がいくまで説明を行っている。また、医療連携体制についてや今後起こりうる重度化になった場合についても、説明をしてご理解・ご納得頂けるよう図っている。		退居をする場合は、入居者だけではなく家族にも十分な説明をして、退居先についても相談しながら支援をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	私達は入居者の言動を観察し不満がないよう個々に話を聞くよう心掛けている。スタッフ間で入居者の情報交換や意見交換を行い入居者が何を求めているか、どうすべきかを話し合っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、虹の家だよりを発行し行事や日常の報告をし、この家族に毎月金銭報告や情報交換を行っている。また、家族の面会時には日頃の様子や体調に変化があった時は電話報告している。		インターネットのホームページにおいても近況報告を行っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族が面会、行事やイベントに参加し、一緒に楽しむ機会を作り、コミュニケーションをとり信頼関係を深め、ご家族が不満や意見を表現しやすいように工夫している。また、苦情箱を設置しているが今まで苦情が入ったことはない。		ご家族に意見や不満等を何でも相談できるよう努めているが、ご家族の方からは「本当に感謝しています」とのねぎらいの言葉をかけて下さいます。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや申し送りの時は、職員の意見や要望を聞き働く意欲の向上にもつなげられるよう、全員で話し合う機会を設け反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整が必要な時は、公休であっても状況に合わせ柔軟な対応が出来るよう職員と話し合い、人材が確保できる勤務の調整に努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の辞職についてはご家族が来訪時に伝えている。入居者には寂しい思いを与えないようそっとして、辞職してから報告し異動や新人職員は虹の家だよりに載せているので読んでいます。新入職員と入居者が早く信頼関係が築けるようなじみのスタッフが声を掛けたりフォローをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に参加することにより、緊急時や看取り、口腔ケアなどの医療的な知識や認知症に対する理解を深めている。ケアのレベルアップ研修の参加の機会を作り、職員自身の心身の育成にも働きかけている。		研修で参加をした内容は内部研修や報告書の閲覧にて他のスタッフにも学べるよう努めている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	西区のグループホーム間で行われる集まりに積極的に参加している。4, 5名の班に分けて職員にも参加できる勉強会や、交流会などサービスの質の向上に役立てる取り組みを実施している。		西区グループの交流を目的に利用者さんを交えた外食会を行ったり、口腔ケアの勉強会など歯科の先生と職員とでサービスの質の向上を目標としていく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は職員の話聞き、職員同士の人間関係を把握できるよう努めている。また、ストレスが軽減できるよう職員の声に耳を傾けるよう努力している。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は、管理者や職員の努力は認めていると思う。研修は勤務に支障が起きないように調整し、向上心を持って働けるよう努力している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	困っていることや不安なことを視点に置き、家族とよく話し合い病歴や本人自身はこれからどう生活していきたいかなど、得られた情報を制していく中で状況を把握し、信頼関係を築いていけるよう聞く機会を持つことを努力している。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来る限り家族とよく話し合い、困っていることや不安なことなど何を求めているのか話を聞く機会を作り、受け止めて対応している。		ご家族の方はどこまで対応してくれるのかが分からず、不安を持っていたり困っていることがあるため、十分に説明を行い理解して頂くことで安心して頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時に本人やご家族が何を求めているか、今までどのような暮らし方や生き方をしてきたのか、総合的に情報を捉えた上で必要な支援を見極め当グループホームで対応できるものなのか判断し対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご家族と見学に来られ、本人が納得した上で説明している。入居後は入居者に合わせて焦らず、職員はこれまでの暮らしや生き方、家族関係を把握して声かけや会話を引き出すよう心がけている。ホームの雰囲気に早くなじむことが出来るよう、ご家族の要望を聞きながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	居室の掃除、衣類の整理など本人が出来るところはやって頂き、職員と会話をしながら一緒に行っている。昔の話やしぐさなど、何気ない言葉から本人の思いや情報を得たり、会話やレクリエーションを通してお互い支え合う人間関係を築いている。		日常生活を見守りながら本人の出来ることへの声かけを繰り返し行っていき、本人の立場になってより良い共同生活が出来るよう取り組んでいる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族から気がかりなことや要望などを気軽に言って頂けるよう、こちらから日々様子や支援の内容を伝えて話しやすい雰囲気を作り、ご本人と一緒に支えている関係作りに取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の面会時には日頃の本人の暮らしぶりや、レクリエーションやボランティアでの楽しまれた様子や、他の入居者とのよりよい関係を築くためにどのような支援をたかなどをお話して、家族の方に安心をして頂けるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の親族や昔からの友人などが気軽かつ積極的に訪ねてきた頂けるよう声をかけ、今まで支えあってきた人達との関係が途切れないよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しないよう、会話やレクリエーションなどを通して入居者同士が仲良く暮らして頂けるよう努めている。また、個々の事情や言動を見ながら入居者同士の中の良し悪しに配慮して、皆で楽しく支えられる関係作りに努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で出来ることとできないことの観察、希望や意向を示す言動についてもセンター方式を用いて分析をし把握に努めている。		入居者一人ひとりの具体的な思いについて話し合いをして、本人の出来ることを取り入れ、困難な場合は入居者同士が共同で行っている。入居者の思いをケアプランに取り入れて、支援の実践につなげている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人やご家族から生活歴や思い出話など、具体的に情報を頂き記録に残し、ホーム入居までにはどのような経過があったのかを把握することで個別に合わせたケアプランを実施している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの日々の様子を24時間観察して記録に残している。小さな動作や言葉にも個人の変化として感じ取り、本人を把握して必要な支援につなげられるよう取り組んでいる。		一人ひとりの心身状態に配慮した具体的なケアプランの作成に努め、職員全員がそのケアプランを把握した上で介護の実践が出来るよう取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアマネと職員との間でプランの評価や、ご本人や家族から出た意見・要望など意見交換をする中で介護計画の原案を作成している。その原案をケアカンファレンス時において意見交換を行い、自分らしく暮らしていける計画なのかを再検討し、意見やアイデアを反映できるよう取り組んでいる。		個々の利用者の把握を行い、ケアマネと職員全員で介護計画の見直しを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3カ月ごとに見直し、3ヶ月経過していなくても健康状態の変化や介護の変更があった時にはプランの見直しを行っている。その際に、身体機能だけではなく安らぐ生活や楽しい生活、生きがいを持つ生活や精神的に安心できる具体的な計画となるよう取り組んでいる。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者それぞれの日々の様子、食事や分量、排泄や身体状況、本人の言葉、訴えや要望などを記録し介護計画の見直しに生かすよう取り組んでいる。		日々の生活の様子に変化やケアを必要とすることなどを個別に記録・記入し、見直しに生かすよう職員間の情報や入居者の気づきなどに印をつけて、分かるように取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者やその家族の要望に応じて、退院や送迎に必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回、ギター演奏やフラダンスの講師の方に訪問して頂いている。また、消防訓練を消防署にお願いしたり、地域での暮らしを続け町内の地域資源と協働し活用できるよう連絡を取り実施している。		今年は町内会と合同で消防署に依頼をして「消化訓練と避難訓練」を行うことができた。今後も取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者本人の希望で近隣の理美容室に行かれたり、ホームに訪問して頂きサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の参加メンバーの方々と地域包括センターの方がいらっしゃるので、活動報告をするなかで評価やアドバイスを頂いている。		運営推進会議の中で包括支援センターの方に包括支援センターの活用法や介護予防についてミニ講習をして頂いた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回提携の訪問診療、月に4回の訪問看護があり、バイタル測定や体調に不満がないか入居者に話しかけられ相談できる関係を持っている。体調に変化があった時は、その都度主治医に報告をして指示を頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者一人ひとりに病院で認知症の診断をうけ治療を受けており、適切な指示や助言のもと支援を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携している訪問看護師が毎週看ているため、顔馴染みとなり気軽に相談しやすい関係が出来ている。スタッフも日頃の健康管理や医療面について助言や相談が出来ている。		訪問診療と訪問看護を行っている医師と看護師とは、24時間の連携が密にとれる体制が確保されている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した場合、入院先に必要な情報を提供している。また、なるべく早く退院できるよう家族や病院側の回復状況等、退院支援に努め実施している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホームとして「看取りの考え方と指針」のマニュアルを作成しており、重度化した場合や終末期に備えている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者の家族やホーム、医療機関が一丸となって取り組めるよう、家族や医療機関とともにチームとしての連携に努めている。職員の力量も鑑み、急変した場合は緊急時に対応できるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	退居にあたっては、契約書に基づいて家族と十分話し合いご納得された上で住み替えられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	すべての職員が個人情報保護法の理解に努め、入居者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーの確保を徹底するなど、入居者の尊厳と権利を守ることに取り組んでいる。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者が食べたいメニューや調理の下ごしらえなど、本人が決める場面づくりを実施している。		天気の良い日は散歩、草むしりなど入居者の希望に対し柔軟に応じて、職員と一緒に見守りながら生活している。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースでゆっくり楽しく過ごして頂けるよう、可能な限り個別性のある支援に取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者一人ひとりの個性を大切にした髪形や服装など、本人の好みや意向に沿えるようさりげなく支援している。本人希望でなじみの美容室の訪問を依頼したり、外出をしてなじみの床屋に行く支援を行っている。		ホームと家族との連携をして、実現できることをこれからも増やしていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れ、好き嫌いがある人には調理を工夫したり、代替してその人に合わせた食事が出来るよう実施している。調理の下ごしらえや手を拭きの準備、下膳は入居者が行っている。		旬の食材を近隣の人から頂き、入居者の皆さんで下ごしらえなどをされる。また、食器洗いは我も我もと積極的に参加されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日午前中はラジオ体操を行い、そのあとはコーヒーやココア、カフェオレや牛乳など本人の好みのものを一人ひとり日常的に楽しんで頂けるよう支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけパットやおむつの使用が少なく済むように、排泄のパターンを把握してトイレ誘導をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴はいつでも出来るよう、一人ひとり個別に合った入浴を楽しんで頂けるよう無理せず気分の良い日に入浴されるよう支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	職員は一人ひとりの入居者の睡眠パターンを把握し、夜間トイレの見守りや夜に眠れない入居者にはホットミルクなどを提供して、安心して眠ることが出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者一人ひとりに合った役割があり、洗濯物干しや食器洗い、各自居室の掃除、モップ掛け、ウエス切りやふきん縫いなどを行っている。また、楽しみ事としてオセロやトランプ、花札、玉入れなどの場面作りを実施している。		入居者の「さあ、今日も頭の体操をしましょう」という掛け声で、それぞれ自分に合った楽しみ事を行っている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者がお金を持つ大切さを理解され、本人が買いに行きたい場合はスタッフが付き添い買い物ができるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近くの公園まで職員と入居者で散歩している。車椅子使用の人も出来るだけ外に出て、気分転換やストレス発散が出来るよう取り組んでいる。		入居者の希望でカラオケボックスへ行った。初めて行く人、カラオケ店内でチョコレートパフェを初めて食べる人などがおり、楽しい時間を過ごし歌も歌われていた。これからも入居者が行きたい所へ行けるよう、出来る限り希望に添えるよう取り組んでいきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事で雪まつりやお花見、紅葉など季節を感じられる場所へ車で出かけている。行事では入居者の親族の方にも声をかけ、一緒に出かけられる機会を作り実施している。		外出をした時には普段行かないレストランでの外食やお弁当を食べて頂き、楽しんで頂いた家族の協力を得てもっと入居者と一緒に行きたいところに行けるよう取り組んでいきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に連絡を取りたいと思った時に、気軽に職員に言い出しやすい関係作りに心がけているほか、ご無沙汰しているお友達や姉妹に元気な声を聞かせてあげるよう支援をしている。		電話の会話が他入居者に聞こえないよう、居室で話が出来よう配慮している。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の家族や友人の方がいつでも気軽に訪問できる雰囲気を作り、居心地良く過ごせる工夫をしている。		月1回は入居者の家族が訪問され、一緒に食事を楽しまれ食べて頂いている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はあってはいけない行為であると職員全員が認識を持って働いている。		入居者の人権を守り、どんな事があっても拘束を行わず入居者が安心できるケアに取り組んでいる。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけていない。建物の構造上、玄関は死角となってしまうため玄関の入口にはブザーを取り付け入居者の出入りには察知、把握をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は常に入居者に目配りをし、さりげなく一人ひとりを把握するよう努めている。夜間は巡回のほか、トイレや物音がした時も入居者の様子や行動に気をつけ見守っている。</p>		<p>職員は入居者の一日を記録や申し送り等で全員の状況を把握し、24時間入居者の安全に配慮している。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>包丁など使用した後は鍵を付けている。その他、洗剤等にはカーテンで目隠しするなど危険防止に取り組んでいる。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災などこれらの事故防止に努めている。また、ヒヤリハットを記録し発生した場合は事故報告書を作成して、事故原因や今後の予防策について検討し、家族へ説明し報告している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>事故発生時のマニュアルや申し送りなど、知識と実践の資料がファイルに保存されている。夜勤時に目を通し、実際の場面で生かすことのできる技術を身につけている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に4～5回の火災訓練や避難訓練を定期的に行い、八件消防署の協力を得て町内会、近隣住民と実施している。虹の家のボイラー室から出火と設定し、通報訓練、避難訓練には入居者、町内会の人も参加され消火器の実技指導、消火訓練、バケツリレーに入居者も参加し地域の人々の協力を得られている。</p>		<p>昨年6月に管理者が防災管理資格を取得したので、夜間を想定した訓練を行い、全員で災害時対策に関する話し合いを行った。また、消火訓練や避難訓練を重ねいざという時に迅速で的確な行動がとれるよう万全な体制がとれるよう取り組んでいきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>調理の手伝いをして頂いた時に包丁で指を切ることもあれば、外出すれば転倒することなどもある。生活していれば当然のことであり、家族へは十分に説明をし理解を得られるよう努めている。</p>		<p>見守っても注意をしても怪我をする可能性もあるが、生活する中で状況変化が生じた場合はケアプランに取り入れ家族の方にも説明している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>身体の状況や異常を早朝に発見した時はバイタルチェックを行い記録に残し、状況によっては医療受診につなげる。</p>	<p>入居者一人ひとりの体調の変化など個人記録に残し、普段の状況は職員が把握しているので少しでも食欲など様子の変化があった場合は早期対応に結びつける行動に取り組んでいる。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量については職員が理解できるよう「処方薬一覧」としてファイルをしている。服薬後の症状の変化についても確認をして記録に残している。</p>	<p>入居者の服薬に変更があった場合は職員全員に伝えている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>なるべく食物繊維の多い食事を取り入れたり、水分摂取にも心がけ自然排便を促す工夫を個別にしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの口腔内の清潔保持が出来るよう、口腔ケアを心がけたり介助しながら日常的に行い、週2回は入れ歯洗浄剤を使用し消毒・脱臭を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の材料は献立メニューと一緒に専門業者から取り、カロリーや栄養バランスは業者の管理栄養士が行っている。一人ひとりの体調に合わせ盛り付けたり、嫌いな物などのある人には代替の物をつけ、24時間チェック表で一人ひとりの食事摂取量や水分量を記録し、職員全員が把握できるようになっている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>入居者には排泄後や食事前にはせっけんで手を洗うよう、徹底するように努めている。感染対策マニュアルを作成して職員全員で予防について学習し、感染症の予防対策が徹底できるよう取り組んでいる。</p>	<p>年に1回インフルエンザの予防接種を受けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後にふきん、まな板を漂白殺菌し、食器も熱湯で消毒している。毎日配達される食材は新鮮なうちに使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはプランターに色とりどりの花を飾り、利用者や利用者の家族、近隣の人たちにも親しみやすい雰囲気づくりに努めている。ホームの外にはベンチを設置し、気分転換にベンチでお茶を飲んだりお花を見ながら季節感を味わえる工夫をしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関前にはお花が置かれ、居間の窓際にも観葉植物の鉢が置かれており落ち着いて過ごせる空間を作っている。台所は居間から続いている配置なので一緒に食事の支度をしたり、支度の様子を見たり嗅ぐなど五感で感じることができ、家庭的で生活に密接した雰囲気である。また、お正月・ひな祭り・こどもの日・七夕・クリスマス など季節に合わせた部屋の飾り付けを行い季節を感じて頂ける空間作りをしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1F道路が見える所にベンチがあり、一人座っても心地よく過ごせる場所である。また、2Fにも大きなテーブルとテレビがあり、そこにも入居者同士が談笑される場所もある。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者それぞれが必要に応じて、以前から使用されていた生活用品を持ってこられ安心して過ごせるような工夫をしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ、居室などは淀みがないよう十分換気に努めている。入居者の状況に応じて温度調整を行っている。		冬は加湿器を使用したり、一人ひとりの居室には保湿タオルをかけて温度調整を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>階段や廊下、トイレ等入居者の状態に合わせて手すりなどを設置し、安全確保とともに自立への配慮をしている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの混乱しやすい場面、失敗しやすい場面は何であるかを職員全員で話し合い、自立できるための支援をしたり、混乱や失敗をした時の速やかな対応をすることで本人の不安を取り除き、残存能力を引き戻せる工夫をしている。</p>	<p>生活のリズムに従い、声かけなど納得されて行動をとれるよう取り組んでいる。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>職員と一緒に玄関の外に植えたお花に水をやったり、花の成長の話をしたり、ベンチで日向ぼっこが出来るよう工夫をしている。</p>	<p>外に椅子を設置し、枯れた花や草など職員と一緒に活動できるように活かしている。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>	入居者がより自分らしく暮らすことが出来るよう、健康管理や安全確保を行うだけでなく、一人ひとりの力を発揮できる手助けをし、一人ひとりの願いもできるだけ叶えるよう心がけている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>	パズルやトランプ、花札、オセロなどを一緒に行ったり、職員と一緒に散歩に行ったりとゆったりと過ごして頂いている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	一人ひとり好きな場所や思い思いの場所にて自分のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	入居者の尊厳を守り、一人ひとりの暮らし方の希望やその人らしいあり方を職員が把握し、一方的ではない利用者本位の支援に取り組んでいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	年間行事は無論、希望があれば買い物、天気の良い日には日常的に公園へ出掛けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	月2回の訪問診療と毎週の訪問看護を受けており、365日24時間の医療連携がとれる体制である。また、年1回健康診断を行っており、医療機関とは信頼関係も出来ているので入居者は安心して過ごされている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	本人や家族の要望に応じて暮らしを続けていくために必要な支援を家族と話し合い、日々変化する状況等、臨機応変に柔軟な支援を提供している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>	家族とは面会時に日々の様子や体調などを積極的に伝え、気軽に相談が出来て家族の理解や協力を得ながら、お互いに信頼関係が出来ている。

サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	毎月1回、フラダンス教室やギター演奏が訪問して下さり、一緒に歌ったり踊ったりしている。また、訪問理容室や入居者の友人・知人の方が訪ねている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>	運営推進会議を通して地域の方々や町内会役員の皆様にグループホームでの活動内容を知って頂ける機会、場所が出来たと感じている。地域で開かれた行事に参加するだけでなく、会議の中で町内会とグループホームが合同で消防訓練や夏祭りの企画・実現に繋げることができた。
98	職員は、生き生きと働けている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>	全職員は優しく思いやりがあり、入居者を大切に働いていると自負している。グル-ブホームの雰囲気は職員の間性性ににじみ出ていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>	出来るだけ入居者が家族に近い環境で過ごせるように努めているほか、居心地の良い暮らしの場を提供できるよう心がけている。入居者も場面ごとに職員へ感謝の気持ちを表している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>	入居者の家族とは常に状況などを説明したり、希望や要望などを話し合い、出来るだけ思いに添える支援を行っている。入居者と家族が喜びと安心のある生活を送って頂けるように努め、満足して頂いていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		<p>入居者さんが買い物や、行きたい所への意思表示に沿うよう努力しています。3食の食事はスタッフが心をこめて食材を工夫し食べやすくなるよう努めた結果、髪の毛がふさふさになり黒くなられた方が多くなり、職員も驚いています。入居者さんと職員も楽しく毎日が過ごせる雰囲気作りを心掛け、一緒に自立して暮らせるよう工夫をしています。</p>